

平成 27 年度 社会資本総合整備計画 事後評価概要調書

計画とりまとめ課	まちづくり局 市街地開発部 市街地整備推進課	要素事業所管課	市民・子ども局市民文化室 経済労働局産業振興部商業観光課 まちづくり局総務部企画課 まちづくり局交通政策室 まちづくり局市街地開発部市街地整備推進課 建設緑政局緑政部みどりの保全整備課 建設緑政局道路河川整備部道路施設課 建設緑政局自転車対策室
----------	------------------------------	---------	---

1 計画の概要

計画の名称	川崎駅周辺地区都市再生整備計画	計画の期間	平成23年度～平成27年度
計画の目標	<p>【大目標】 職・住・憩のバランスのとれた広域的な集客機能を備えた活力と魅力にあふれる広域拠点の形成</p> <p>【目標1】 駅周辺地区を一体化することにより交通結節点機能を強化し、市の玄関としてふさわしいまちづくりを推進する</p> <p>【目標2】 安全性・快適性及びまちなみの景観の向上を図り、人と環境にやさしいうるおいある都市空間づくりを推進する</p> <p>【目標3】 市民の憩いの場の創出と歴史的資源を活かし、回遊性を高めた個性的で賑わいのあるまちづくりを推進する</p>		
計画の成果目標 (定量的指標)	<ul style="list-style-type: none"> 川崎駅の乗降客数を520,000人/日(H27)に増加させる。 駅周辺の放置自転車数を1,000台まで減らし、安全で快適な歩行空間の創出を図る。(H27)。 歩行空間の改善や魅力・にぎわいの向上により、回遊性を高め、主要13地点における通行量を510,000人・台/日に増加させる(H27) 富士見公園内の競技場を、市民にとってより使い易く、魅力ある施設として再整備し、試合及びイベント開催日数を70日/年に増加させる。 		
計画変更を行った場合、変更内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> 富士見公園の用地取得について、再編整備事業推進に伴い、関連事業に移行した。 (仮称)川崎駅本町自転車駐車場整備直後に着手予定であった、(仮称)川崎駅小川町自転車第2駐車場の整備時期が変更となり、計画から削除した。(次期計画に移行予定) 東海道かわさき宿交流館について、整備内容の精査により基幹事業から提案事業に移行した。 通行環境向上のために、荷さばき対策社会実験を追加した。 一部の事業において、工事期間の延伸等による事業期間の変更、事業費の精査による事業費の変更を行った。 		

2 社会資本整備総合交付金を充てた要素事業の進捗状況(概要)

事業の区分	主な事業名	計画事業費		執行額(千円) (評価時)	進捗率 (%)	事業進捗状況の概要
		当初(千円)	評価時(千円)			
A (基幹事業)	駅前本町線(他3路線)道路整備	71,000	71,000	71,000	100%	
	川崎駅扇町線 道路整備	-	10,000	10,000	100%	
	富士見公園(長方形競技場)整備	1,441,000	1,793,000	1,793,000	100%	
	(仮称)川崎駅本町自転車駐車場整備	771,000	394,000	394,000	100%	
	一般県道川崎町田、市道小川町線 緑化施設等整備	50,000	30,000	30,000	100%	
	京急川崎駅東街区 優良建築物等整備事業	372,000	70,000	70,000	100%	平成27年度末完了予定
B (関連社会資本整備事業)	-	-	-	-	-	-
C (提案事業)	(仮称)東海道まちづくり文化・交流拠点施設	671,000	613,000	613,000	100%	
	荷さばき対策社会実験	-	7,000	7,000	100%	
	都市再生整備計画事業効果検証調査	3,000	4,000	4,000	100%	平成27年度末完了予定
	中心市街地活性化マネジメント事業	90,000	82,000	82,000	100%	平成27年度末完了予定
全体事業費(A+B+C)		3,476,000	3,074,000	3,074,000 【財源内訳】 国:1,229,000 市:1,845,000	100%	

3 計画に記載した評価指標の目標値の実現状況

評価指標の名称、内容	① 駅の乗降客数 ② 放置自転車数 ③ 通行量 ④ 試合及びイベント開催日数			
定義及び算定式	① JR川崎駅と京急川崎駅の1日平均乗降人員の合計(人/日) ② JR川崎駅東口・京急川崎駅周辺地区における放置自転車数(台) ③ 休日の川崎駅周辺地区内主要13ポイントでの歩行者及び自転車通行量(人・台/日) ④ 富士見公園に立地する長方形競技場での試合及びイベント開催日数(日/年)			
その指標を設定した理由	① 東西の一体的な駅周辺整備による広域的な利便性の向上度合いを駅乗降客数の増加で評価できるため。 ② 総合的・戦略的な放置自転車対策を行うことで、放置自転車数を低下させ、安全で快適な歩行空間の創出を図れるため。 ③ 快適で歩きやすい歩行空間の実現や、都市の魅力やにぎわいが高まることによる来街者の増加を、主要13地点における通行量の変化による把握するため。 ④ 長方形競技場での試合及びイベント開催日数の変化により、スポーツ・レクリエーションの拠点としての再整備の効果を評価するため。			
当初現況値	中間目標値	最終目標値(H27)	実績値(確定・見込)	目標達成状況
①490,397人/日(H21) ②2,200台(H21) ③495,585人・台/日(H21) ④64日/年(H21)	①－ ②－ ③－ ④－	①520,000人/日 ②1,000台 ③510,000%人・台/日 ④70日/年	①526,000人/日(見込) ②372台(見込) ③442,894人・台/日(見込) ④75日/年(見込)	①達成 ②達成 ③未達成 ④達成
目標達成状況に対する所見	① 平成27年の見込値で、最終目標値を達成しており、川崎駅と京急川崎駅との回遊性強化等の事業効果が現れていると考えます。 ② 目標値を達成しており、駐輪場の整備を初めとした放置自転車対策の事業効果が現れていると考えます。 ③ 平成27年の見込値では、地下街商業施設のリニューアル工事などの要因により、目標が達成できませんでした。 ④ 平成27年の見込値で、最終目標値を達成しており、多用途の利用を促進する、という競技場整備の事業効果が現れていると考えます。			
将来の見込み	① 京急川崎駅東街区整備の波及効果などから、更に増加することが見込まれます。 ② 新川通り周辺において、駐輪場整備を行っていくと共に、継続的な啓発事業等を行うことで、更に減少することが見込まれます。 ③ 地下街商業施設のリニューアル工事などの要因により達成できませんでした。しかし、リニューアルの完了、京急川崎駅ビルの完成等により、今後増加していく事を想定しています。 ④ サッカーやその他の競技の試合開催が可能になったことに加え、指定管理者の積極的な自主事業の取組推進により、今後も試合及びイベント開催日数の増加が見込まれます。			

4 事業効果の発現状況(計画で設定した以外の数値的・定性的な評価指標によるもの)

評価指標の名称、内容	なし
定義及び算定式	－
指標とする理由及び計画において設定した評価指標との関連性	－
評価指標の実績値を含む効果の発現状況	－

5 市民・事業者に対する意見募集・説明・調査の状況

意見募集・説明・調査の内容、手法、実施期間	・意見募集 内容：市のホームページに事業目的、事業概要、事後結果を掲載し、市民から意見を募集。また、区役所等に冊子、意見書(紙)を設置。 手法：意見書の持参及び郵送、FAX、メールなどにより意見を募集。 実施期間：9月1日～9月30日
意見募集・説明・調査の結果及びそれを踏まえた対応方針	・7人の方から意見が寄せられ、放置自転車の減少や東海道かわさき宿交流館に対する肯定的な意見や、駅周辺整備の継続や多言語案内板の設置に関する要望等が見られた。 ・市民意見の把握の結果、事業に関する肯定的な意見が得られ、事業効果があったと言える。今後は次期社会資本総合整備計画を策定し、京急川崎駅周辺の魅力向上やJRとのアクセス強化、新川通りの歩行環境改善などについて、引き続き取り組んでいく方針である。

6 今後の方針等

<p>総合的な所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指標の達成度 評価指標として「駅乗降客数」、「放置自転車数」、「通行量」、「試合及びイベント開催日数」を設定しましたが、「駅乗降客数」、「放置自転車数」、「試合及びイベント開催日数」については目標を達成しており、事業の効果が見られました。一方で、「通行量」については、地下街商業施設のリニューアル工事などの要因により達成できませんでした。しかし、リニューアルの完了、京急川崎駅ビルの完成等により、今後増加していく事を想定しています。
<p>今後の方針</p> <p>次期計画 (あり)・なし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の教訓を踏まえた災害対策や、羽田空港の国際化等、川崎駅周辺を取り巻く状況は大きく変化しています。こうした状況変化を踏まえ、これまでの取り組み成果を活かしつつ、新たな課題に対応したまちづくりを推進するため、現在、「川崎駅周辺総合整備計画」の改定に向けた取り組みを進めています。(平成27年度末改定予定) ・川崎駅周辺の回遊性や、にぎわいの更なる向上を目指すため、川崎駅北口自由通路の整備、JR川崎駅と京急川崎駅間の歩行者アクセスの強化、新川通りの歩行環境改善などについて、引き続き取り組みます。 ・次期社会資本総合整備計画の作成に当たっては、総合整備計画改定におけるまちづくりの方向性と整合を図りつつ、引き続き魅力と活力ある広域拠点の形成に向けて取り組んでまいります。